

No.	団/個	Q1：新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、活動はどうされていますか？	Q2：お困りのこと、行政機関等への要望等。	Q3：音ボラネットへの要望や期待。	Q4：その他、ご意見等ありましたらなんでもどうぞ。
1	団体	市立図書館内のスタジオを使用しているの広報紙、雑誌の録音活動は、スタジオが使用できず自宅録音にて対応しています。月一回の勉強会も中止しております。 また、2年に一度募集して行っていました新人養成講座も、今年は取りやめることにしました。 新型コロナウイルス感染症の今後の状況は見通せず、また、受講者・会員の感染防止対策が万全に取れるとは言い難く、開催は難しいとの判断です。 時間が止まったかのような日常ですが、出来る範囲で、活動を継続しております。 全国の会員の皆様のそれぞれの活動の様子を伺うことで、また、会の活動の励みにしたいとおもいます。 どうぞよろしく願いいたします。			
2	個人	毎月、短歌同人誌を担当箇所を決めて三人で読んでいます。 私以外の二人が読んだデータを私の自宅に届けてもらい校正し、メールで訂正箇所を指摘し、訂正後のデータをまた届けてもらう。出来上がったら郵送でライトハウスへ。 甲府市の広報は自宅録音の者が分割担当（6人から8人）、編集・テープへのダビングは少人数でライトハウスで行う。 音訳書は、自宅録音しています。 ライトハウスの録音室はずっと休止状態です。			
3	個人 団体	私たちの会は、水戸市の広報（広報・市議会報・社協だより）を音訳しています。 活動拠点も市の福祉会館においています。会館は使用禁止になっておりますが、会の機器等を会館の録音室に置いてあるので、交渉して特別に使わせていただいています。 しかし、今まで通りとはいきませんので、最小限の人数で会館を借りて作業していましたが、最近では自宅にCDダビング機や、ラジカセなどを持ち帰って、担当者が交代で自宅で作業をしています。（広報のみ）もともと、自宅録音の方がほとんどなので、校正はファイルポストを使ってそれぞれ2人に校正してもらい、最終データをまとめ役の担当者に送っています。それをまとめ役が一つのデータにしています。広報はCD用データとカセットテープ（マザーテープ）を作って点字図書館に送るだけなのでテープを作る作業に時間がかかりますが、ほとんど問題はありません。 市議会報と社協だよりは、利用者に直接CD・テープを送ったり、HP用のデータを市に提供したり、音楽CDを作ったりしなければならぬので、最小限の人数で福祉会館で作業をしています。（毎月ではないのでそんなに負担はありません） 4月初めに開催予定だった会の総会は、紙面評決で行いました。 個人的には、個人依頼の図書も読んでいますので、ステイホームではかどってます。帯に「来るべき大感染時代」に備える」なんてあるタイムリーな本なので早く仕上げたいのですが、図表も多く大変です。	集まらないので、定例の勉強会ができないことが悩みます。 でもこれは仕方がないことなので、みんなではやく集まれるといいですね、連絡がたらラインで会員間のやり取りをしています。	役員の方々は計画していた集まりが中止になり、いろいろ大変だと思いますが、安心できる時期が来たら是非また企画していただきたいと思います。	今、音訳や会のいろいろが忙しすぎてテキストに手が出せないのが申し訳なく思っています。時間が取れるようになったらまた参加したいと思っています。軽部さんにもそう連絡しています。すみません。
4		基本的に、広報などの市役所からの委託事業は、必ずおこなうこととされているので、それぞれの担当者、その時都合のつく人が、自宅でパソコン録音、リーダーが編集、発送作業は、最低限の3人で、閉鎖中の社協建物を開けて頂いて、録音室の扉を開けておこなっている。 個人的には、図書のpころくおん、自己校正している。	当会は、市の委託事業になっているので（委託になる以前に、福祉課が募集してきたグループなのです。数年前に委託になりました。ごく安い委託費で）、本来の作業はしなければならぬ。	グループの委託事業はどんな形でされているのか、知りたいです。	全国的な勉強会があると、全国共通の活動が、より良くなり、利用者にも作業者の私共にもより良い安心ができると思う。 今回の中止になった勉強会が残念でした。準備も大変と思いますが、よろしく願います！
5	個人	活動は休止している。			
6	個人	個人ボランティアですので、会の中の私の担当の事を書きます。 私の音訳図書の中には市の予定表があり、短時間ですが有償契約の為、広報や市議会だより等と同じに休む事なく読んでいます。 1人で読むため、仕分けありませんので、特にウイルスに対しての工夫も無いのですが、校正者が近所にいるため、今までは顔を合わせて指摘を受けていましたがそれが無くなり、書面のみでのやりとりしています。 他は、身体障害者新聞の音訳ですが、これの音訳は休みとなりました。 実際、この読み物の主に書かれている障害者の行事等がほぼ中止や延期となりますので、次回の号が発行されるのかも疑問ですが。	コロナウイルスの影響が収束したとしてもこれからは、いつまでこの様な不測の事態がおきるともかぎりませんね。 これを踏まえた方向性を見出していかないといいと思います。滞りなく行くには集まらずに音訳業務が出来る体制が肝要かと思えます。 全国でも多数の音訳グループが、仕分けや原本の印刷、音訳業務の一環としてのワードやエクセルの共同作業などを便利に使用する一方で全くパソコン操作も出来ない会員がいてそれを取り入れる事を躊躇している会がある事も確かだと思います。広報等の、音訳を音訳グループに読んでもらうために、自治体がオンラインストレージの研修会を開く地域もあると聞いています。国の行政から指示での地方そういった事の促進を望みます。	私、個人がテキスト訳を担当を受けていないので恐縮なのですが、テキスト訳の担当者不足があるようなのですが、会員グループへの輪番制はいかがでしょうか？	今後ともよろしく願い致します。

7	<p>個人</p> <p>活動場所である総合福祉センターが使用できなくなっているため2回の例会は行っておりません。(3月よりお休み、4月に予定しておりました総会も資料をお送りしただけです。) 音訳活動ですが、広報や市議会だよりなど行政からの依頼に関しては、従来どおり作成しております。通常はマザーCDとテープの作成とダビング、発送がありますので4〜5人が総合福祉センターに集まり1日から2日で作業しております。 場所が使用できなくなったこと、サークルのメンバーが高齢者が多いので集まるとの作業に不安もあったので、広報課と相談いたしました。 広報課としては、この状況下だからこそ視覚障害者に情報をお届けしたい、質にはこだわらないのでなるべく短時間で少人数でお願いしたいとのことでした。 作業場所などは密にならない広い部屋を広報課に確保してもらい、作業人数も減らし、すべて自宅録音(各自が責任もって自己モニター)モニター付きの録音室での録音などはなしとしました。 現在は編集作業と発送含め半日で行っています。特別給付金に関しての臨時号などもありましたので緊張感をもって作業しています。 ほかにも、地元の情報誌など複数で行う活動はありますが、二人でやっていたものをひとりで行うなどしています。 →6月7日追加解答: ただ今回よかったことがひとつありました。利用者の要望を受けて、給付金関係の情報を掲載した臨時号の音声ホームページ上にアップしました。広報課やれば出来るじゃないかという感じですが、一歩前進です。</p>			<p>不安なことが多い毎日ですが、楽しい本やほっとするような情報を視覚障害者の方にお届けすることも大事だと思って活動しています。 一日も早く日常に戻ってくることを願っています。</p>
8	<p>団体</p> <p>地域が長野県の伊那谷ですので、何もしていません。会合でマスクを着用するくらいです。</p>	<p>困っていること要望等、特にありません。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>当会の名称は「ボランティアネットワーク」とうたっているが、運営のやり方がネットワークっぽくない。 個々の活動が手いっぱいではなかなかネットワークができないかもしれないが、「ネットワークへ仕向ける」運営努力を少しずつで良いのではありませんか？そもそも、この会は「ネットワーク化」する方針がないのでしょうか？それはそれで問題ないです。</p>
9	<p>個人</p> <p>私は3か所で視覚障害者への情報提供のためのボランティア活動をしています。テレワークが進んでいるボランティア活動は通常通りにできました。しかしテレワークが進んでいないボランティア活動は行わざるを得ませんでした。一堂に会して研修をするなどは中止しました。</p>			<p>視覚障害者の皆さんの知る権利や、学習意欲に対しての情報提供の一翼は寝食を惜しんで活動するボランティア頼みのところがあります。ボランティアの減少する現在、これらが改善され視覚障害者の皆さんが安心して生きていける社会になってほしい。</p>
10	<p>団体</p> <p>残念ながら、3月から定例会も開催出来ず、収録も出来ず、自宅で自粛です。ボランティアの皆さんは高齢なので万一を考えてのことです。 6月は何とか収録したいと考えて居ます。</p>			
11	<p>個人</p> <p>全体的な例会・研修会は休会です。少人数での校正・読み等の研修は行っております。会員には図書館等への蔵書を促しています。 テープ録音のみで図書館に収められているテープのCD化作業などを行っております。音訳経験の浅い方にはテープを聞きながら音訳(編集)の勉強にと思ひ。(テープの劣化もあり。) 6月からは会としての活動を再開したいと思っております。</p>	<p>特になし。</p>	<p>音ボラネットの取り組みには敬意を表します。テキストデザイン製作作業の速さには協力体制の強さを感じられます。素晴らしいことだと思います。</p>	<p>シンポジウムに少し期待をしておりましたが残念です。</p>
12	<p>個人</p> <p>緊急事態宣言が出るまで、図書館は一般貸出とともに、録音室使用と受け渡しなど出来ていましたので、通常と変わらない活動は出来ていました。ただ、総会と毎月の勉強会は中止でしたが、ですので、利用者への不便はなかったです。 けれど、宣言以降はすべてが中断、つまり中継機関が閉鎖された状態ですので、実質、本の製作は出来ていません。もともと手元のものを自宅で作業すること、それをボランティア間でやり取りすることは、限度はありますができます。 文化放送番組ガイドは毎月製作できています。これは、フリーペーパーで図書館から紙面情報がPDFで送られます。各自自宅録音でネットを通じてやり取りし、編集者が取りまとめて図書館に送りますので、活動は継続できています。 一方、区報は、宣言前まで、なるべく3密に気を付けて活動していましたが、宣言後は中止しました。先日、宣言延長に伴い利用者一人一人に電話でお断りしましたが、みな一様に「この時期仕方ないよね、わざわざ連絡ありがとう」という反応。ただおひとり「情報がなくて困るのよね」とおっしゃっていました。 打ち合わせは間隔を開ける、マイクや機器類は消毒する、テープ利用者用もパソコン編集する(それまでは、テープ用はアナログ編集をしていました)など、工夫していました。 活動を、いつも集まって行っているため、自宅録音できるものが少ないこと、たとえできても発送作業には何人かが集まらないといけないうえ、苦渋の選択でした。 活動場所が福祉保健センターなので、ボランティアが感染源となってセンター利用者に影響することも考えられました。 6月からは通常発行を予定していますが、結局3回の発行の4回分と区議会だよりが中止になりました。</p>	<p>私たちが困っていることはありません。ただ、いつもは利用者のためとはいいながらこのような状況になると、私たちも利用者から支えられていたことを実感します。ほかに益がないです。からいっぺんに暇になり、今までどんなにエネルギーをいただいていたか、未熟な私たちの読みを聴いてくださっていた有難さを痛感しています。 ただ、図書館の機能って不要不急じゃない部分もあるのではないかと思います。宣言前までの、閲覧室禁止の上、貸し出しもリクエスト対応のみということも続けていたことがあったと思います。</p>	<p>視覚障害者の皆さんがこの状況下でなにか不自由なことがあれば、声を寄せてほしいなと感じました。 もちろん、できることは少ないと思いますが、プライベートサービスで対応できることがあるかもしれません。そんな、気楽な情報交換の場にとか…少し違いますか。</p>	<p>視覚障害者もちろん健常者もですが、メディアでは動画を楽しめとか、離れた人とはネット電話とか、デジタルに疎い方は取り残された感があります。田舎はそれでも過ごし方について都会より様々なことが出来るように思いますが、孤立感が半端ないと思います。いくら電話やメールがあっても、用がないのにこんなときだからと連絡とることってなかなかできないです。 先日NHKでやっていましたが、視覚障害者はソーシャルディスタンスが一番のネック。それと、当事者は手が目だからということが言われていました。ガイド利用がままならない、触って確認することが難しくなるということでしょうか。もちろん、仕事への支障もあると思います。 過去に録音した本の著者、古いのゲッターズ飯田が今年には200年に一度の変革の年と言っていました。 コロナ禍が終われば価値観が変わると。儂いものへの価値が増すというのです。私たちの作るものは録音物ですから儂いということではありませんが、声は一瞬で消えてしまうもの、こんなときも声に出して読むということを忘れず(技術は衰えます)自分磨きをしていきたいものです。それと感謝、これは「マシク」の受け売りです。自分が手に取らない本で、教えられることってたくさんありますね。 ピント外れの回答になったかもしれませんが、すみません、気の利いた言葉が見つからず…図表の説明文に苦勞するはずですね。 音ボラからの発信は、我々ボランティアのかけがえない集いの場になっています。先々の予定の中止を決めなければならぬなど、心労の多い日が続くことお察しします。 でもきっと、また皆で、喧々譁々議論が交わされる日が近いと信じています。</p>

13	団体	<p>豊橋社協付きボラで「あいトピア」という施設で活動をしています。</p> <p>◎ 月2回ある例会は3月後半から5月まで行っていません。幸いにも、広報・議会だよりがあるので、スタジオの使用は許可もらえています。自宅録音(10人ぐらい)中心に活動し、発送を続け、月間雑誌のみお休みいただいております。ひとりのリスナーさんからは「こんな時期に次々音訳が届くので、どうやってるの?」とお電話いただきました。</p> <p>◎ 密にならない新しいスタジオの使い方を実践中です。スタジオの扉を開けると廊下を挟んで左右二つづつの録音室があります。(ひとつは編集室です)</p> <p>発送業務については、編集室で郵袋先月分をチェックして、廊下にダビングするテープを出します。録音室2でダビング・試聴をして、終えたものを廊下の「済みの箱」に入れます。CDは録音室1と3にコピー済みのものを置いておき、試聴してケースにいれて廊下の「済みの箱」に入れます。編集室で「済みの箱」から郵袋にいれて今月の発送をします。スタジオ廊下の先の窓、すべての扉を開けて、最低5人で作業できるように工夫しました。(以前は例会終わりにみんなでワイワイと発送業務を行っていました)</p> <p>これから録音室の使い方は、午前・午後・夕方に分けて、それぞれ最後の人は窓・扉を開け、部屋の消毒を済ませて終了するように。</p>			<p>感染状況は地域により(同じ愛知県でも)差があり、あいトピアの利用も音訳・点訳だけでするので遠慮しながら2階に上がります。まじかに迫ったものがないので活動ができていますので。次に来る感染に備えたいと思います。</p>
14	団体	<p>当会の活動拠点である松戸市健康福祉会館障害者福祉センターは、3月からすべての運営を休止しております。障害者の方々への「ふれあい教室」は休講、部屋の貸出も休止です。それに伴い、当会の活動も3月から休止しております。</p> <p>この状況で視覚障害者への音訳された定期刊行物、図書などの提供が途絶えることは何とか避けたい、せめて松戸市からの情報はお伝えしたいとの思いから、「広報まつど」月2回発行分を一枚のCDにまとめて送付しています。</p> <p>これが今現在の私たちが知恵を絞って実行している唯一の活動です。</p> <p>録音方法：緊急録音チームを結成し、担当月メンバーを決め(4・5名が1チーム)、各自、自宅でパソコン録音。録音したデータをZIPファイルする。dropboxを共有してZIPファイルをアップし、他のメンバーが校正。校正結果を録音者にメールで伝え、修正後の完成データをdropboxにアップ。全ての完成録音データが揃ったら、一枚のCDに作成。</p> <p>送付方法：CD-Rに必要枚数をコピーし、封書でCD返却不要として郵送。従来はCD-RWでコピーし、郵袋を使用して郵送し、利用者が郵袋でCD-RWを返却しているが、コロナ感染の予防対策として、3月からこの方法で利用者へ届けている。障害者福祉センターへは一人の会員が向向き、コピー郵送の準備をしている。</p> <p>その他：会員との情報通達は必要に応じて紙面で郵送。5月からは当会の広報紙「かわらばん」を発行し、共有すべき情報を報告、会員の今の生活状況の紹介、録音図書の製作状況などを掲載している。92名の会員の内、約50名はメールでの配信を行っている。</p> <p>以上が活動の状況です。</p>			
15	団体	<p>図書館が休館のため、図書館依頼の録音物(図書・新着情報等も含め)はすべてお休み。図書館からの依頼である月刊雑誌は、個人購読している方の原本をおかりして、家で録音できる人が読み、提出は保留。データはこちらで保管。図書館が開館した時点で、提出予定。</p> <p>それぞれの会の活動も区の施設が借りられないため、メール等でのやり取りでつないでいる状態です。広報も、元来4人体制で行っていましたが、コロナの関係で、原稿受け取りは1人が向向き(原稿はPDFでと申し出がありました)、原稿が縮小されてしまうため、受け取りに質問、原稿差し替え等はメール行っています。</p>			
16	団体	<p>未だ自粛 自粛の日々が続いています。</p> <p>私たちの活動拠点の福祉センターも3月末から5月末まで閉館となりました。</p> <p>月二回の例会、及び対面朗読が中止になり、みんなで集まることが出来ません。</p> <p>音訳の依頼は有るので、それぞれ自宅で録音をしています。本と校正の受け渡し、会うのみです。</p> <p>処理で迷った時はグループラインで他の方の意見をきくようにしています。</p> <p>対面朗読は依頼者に読んで欲しい本を図書館まで届けてもらい、デージー図書にして、渡しています。(図書館は今週から開きました)</p> <p>ただデージー図書を聴けない方もいます。</p> <p>まだ例会を開けない期間が続くのであればオンライン会議も検討しています。</p> <p>日常と云うものの脆さを痛感しています。</p>			
17	個人	<p>我々グループの活動は市役所の空き部屋を長年慣習的に使わせていただいております、担当課(障害福祉課)の移転などにより半ば見越されております事情から、グループの自発的な判断により4月から現在に至るまで活動を休止いたしております。たぶん発足以来45年で、初めての活動休止だと思っております。</p> <p>休止直前の活動の工夫としては、編集日の共同作業を半数ほどのメンバーに絞り、マスク着用で部屋を開放して行いました。懇親を兼ねたなごやかな会話も一切せず、最短時間で終わらせることを心掛けました。</p> <p>(録音は以前からそれぞれの自宅で行っています。また我々は市立図書館とは無関係です)</p>	<p>普段からそうだが、こういった未経験の事態においても担当課(障害福祉課)職員からの声かけも一切ないので、相談できる相手が欲しいと思った。</p> <p>県の音訳グループは大きな団体でしっかりと判断しているようだが、われわれのような小さい市町村単位のグループは、判断基準も対応策も少く波風にも(今回は大きい波風だが)耐えられずにこれをきっかけにますます弱小化すると思う。</p> <p>オンラインストレージを利用したりリモートワークも可能かと考えたが、メンバー間でオンラインを利用できない人をより分けてしまうため、分断が生じ、今後のモチベーションやメンバー間の協力体制に悪影響が出る恐れがある。</p> <p>しかし、音訳とはそもそも誰のためのボランティアなのか?と考えた場合、こういった非常時にこそ何食わぬ顔で活動を持続できるスキルを身に着け、体制を作っておくべきだと個人的には感じている。</p> <p>休止している今、所詮おばちゃんボランティア集団は同じことの繰り返ししかできず平和な時にどうでもいい情報しか提供できないのか、と情けなく思い、つらい。</p>	<p>図書館に所属していない弱小音訳グループへの情報提供。</p>	

18	個人				専門知識が一般的な教養を備え、コンピュータのスキルを持つ人が必要。となると会社みたいになるしかないのか？と将来性について悩む。
19	団体	三療音訳会は3月下旬の勉強会から、会としての活動は止まっています。都立学校の休校が決まり、講師の先生方も対応でお忙しな中、会としては集まる事ができなくなりました。それから2カ月。年度初めの総会もメールや郵便での対応になりました。対面朗読も休止していますが、読むことになっていた本のデジタル化を依頼され、今は手分けして読んでいます。 正直に言って、読む物があって良かった、することがあって良かった、という気持ちです。盲学校の先生からは、ZOOMで勉強会をしてはいいか？とご提案をいただいておりますが、ネット環境も様々で実現していません。	まず、区のボランティアセンターが閉鎖され、ロッカーの出し入れが出来なくなり、入れてあるスキャナーなどの機器が使えなくなっていることです。幸い、依頼されたのがデジタル化だったので、今回は必要ありませんでしたが、今後は早めに対処しなくてはと考えています。 それとやはり顔を合わせずに作業を分担するのでしょうか。責任者に一任で、ペーパーと電話やメールの相談だけで、一度も全体の本の流れを見ずに、自分の担当の所だけを読むことになり、戸惑いがあると思います。 それから、作業をしていない人のモチベーションの低下です。マンションでテレワークの家族がいるかたは、音訳は無理・・というのが実情です。	今後に向けて、シンポジウムなどの勉強会を企画していただきたいと思います。	私事です、著作権セミナーで勉強したSARTRASの名簿に三療音訳会が載りました。 これは自粛期間だからこそできた、とまでは言えませんが、暇ができたからじっくり取り組む気持ちになったとは言えます。 困難な時期ですが、盲人の方は触れないと暮らしていけないので、もっと大変だと思います。 少しでも暮らしやすい方に、早く戻れますように祈っています。
20	個人	所属している宇治リーディングボランティア(UKV)では、平素の活動場所(宇治市総合福祉会館)で三密の活動は禁止されています。狭い録音室での複数会員による録音作業はできません。 目下自宅で録音可能なメンバー(43名中18名)が、広報や一部の自主制作録音物を、手分けして録音編集し、都合がつく数名が福祉会館へ出向き、CD制作して45名のリスナーさんへ発送作業をしています。	URVとして、昨年度宇治市議会へ「視覚障がい者への広報発行につき予算化」を要望しましたが、議会で請願が可決されたにもかかわらず、2020年度に予算が組まれていません。 パソコン、CDコピー機、再生機などすべて民間の助成金頼みです。		
21	団体	* 3月から例会、選択制OD(暮しの手帖、新聞記事など8タイトル)、など会独自の活動休止。 * 市報(1日・15日)・市長選挙のおしらせの音訳は続けるよう指示があり、全ての貸館休止の中、録音室だけは使用許可。 外出自粛中での活動は負担が多く、市、社協、利用者それぞれと話し合い、割愛出来るものはタイトルと連絡先のみを入れ60分ぐらいの物にする。おしらせとしてCDに詳しく状況説明を吹き込み理解していただいた。 3密状態を避けるため、2~3人で自宅録音し、当日(1日・15日)編集、ダビング、送付。録音室では少人数、短時間を心がける。 * 総会・検討事項が多く、役員会と同日に役員11人で開催。会員には総会資料、経過報告書、委任状(返信ハガキ)を同封し郵送。 役員会で市報音訳について話し合い、あいの会が音訳することが出来なくなった際は社協で作成(業者に頼む等)してもらうことを約束していただき、市報音訳は続けることに決定。報告文を会員に郵送。 * 例会・福祉会館の会議室は窓がなく、3密状態になるため検討中。初級講習を2月の時点で10月に延期したのですが、検討が必要。	今後この様な緊急事態の際の市報音訳をどうするか、ボランティアとしてどこまで関わらなければならないのかなど、コロナウイルス感染が落ち着いたら市・社協・点訳ボランティアと話し合いを持つことを社協と検討中。	落ち着きましたらぜひ「シンポジウム」を開催していただきたいです。	緊急事態の際は市報音訳、点訳は強制的に市より休止するよう指示される。他に市で音訳するなど地域によって様々であることが分かりました。
22	個人	特に工夫ではありませんが、校正、蔵書等は郵便とインターネットサービスのギガファイル便を使って点字図書館とやり取りしています。		1人で活動していますが、もっと教科書の音訳とかしたいなと思っております。 何かあっても校正をしていただく方がいないのでなかなか難しいようです。もしありましたら、教えてください。 また、研修会など北九州に近いものがありましたら、紹介してほしいと思います。	
23	団体	・普段は毎週1回定期的にスタッフが10名くらい一同に会して発送などの事務を行っているが、自宅での作業・日にちをずらす・時間帯をずらすなどで、一人一人別々で作業を行っている。気持ちがバラバラにならないよう、一斉メールなどを利用して連絡を密に行っている。 ・CD表面のハンコ押し、牛乳パック利用のCDケース作り、利用者へ発送するための封筒用意などは何が不足しているか一目でわかり、どんな作業をすればいいか一目で分かるようにテーブルの上にセットしている。 ・会報はボランティア会員にはいつも市のボランティアセンターの印刷機を使って印刷しているが、ポラセンが使用中止になってしまったので、メールにPDF形式で添付して一斉送信した。利用会員には通常通り、CD又はテキスト形式でメール添付で送付。 ・5月は会費納入時期だが、銀行へ行かなくても済むようにコロナ終息までは請求しないことにしている。 ・市の広報の音訳は前以って音訳者が集まって分担や読み方の打ち合わせを行っていたが、市から紙の原稿の他、PDFもいただいで、メールでの打ち合わせを行い、顔を合わせなくても済むようにした。 ・音訳は通常通りに行っている。ただし、事務局にスタッフがいないとは限らないので、そのことは会報で伝えてある。 ・感染拡大防止のため総会は中止となったが総会資料(行った場合は配る予定だった資料)は会員に送付し1年間の活動の様子と今年の予定を知って頂くようにした。(メール添付などで)	・不便なことは、顔を合わせた打ち合わせを自粛しているため、少し込み入った資料の場合、新しいメンバーに頼めず、音訳者が限られてしまう。		
24	団体	通常は拠点である社会福祉協議会の録音室に集めますが、現在は自宅録音できる環境の人のみで製作。 以下の2点のみに絞り活動を縮小しています。 ・視覚障がい者の会代表者から会員の方へのおたより(5月を最後に休止) ・市から委託を受けている刊行物:市広報、市議会だよりなど 録音データを郵送または送信して相互モニターし、ダビング・発送は月に一度だけ拠点に行き少人数で行っています。 録音雑誌製作や取材活動はできていません。 図書館にも録音作業できる部屋を借りていますが、今は入室できません。	困っている、というよりは案じていることがいくつか。 ・読者である視覚障がい者の方とのコミュニケーション不足。 対面朗読は当面休止。毎年6月に行っている交流会も中止になりました。 ・今年度の新入会員へのフォローができていない。 ・今年9月開催予定のボランティア養成基礎講座が中止になり、来年度の新入会員がのぞめない。	情報が欲しいです。 ・活動拠点で製作できる時期が来たとして、マイクやヘッドフォンなど共有の機器を安全に使用する方法。 ・音声データを安全に送受信(できれば無料)する方法。 これは県録連で情報交換を投げかけていただき、GIGA FILEを教わりました。解決済みですがあえて挙げました。	

25	<p>団体</p> <p>活動拠点が図書館内の朗読室です。図書館が閉館中の時は、図書館職員が使用するのと同じ扱いで問題なく使用させていただきましたので通常通りの活動ができました。</p> <p>勉強会では、参加人数が多い時はグループに分けて時間差で行っています。市外から講師を招いての講習会は中止としています。</p> <p>うちの市では感染者は出ていませんが、図書館の入館の際には、名前・住所のチェック、消毒、マスクなど徹底しています。</p>		<p>他の県ではわかりませんが、うちの県では、音訳ボランティアのグループ同士の横の繋がりがほとんどありません。他のグループと繋がる事によって、色々と得る事も多いと思いい、交流会なども持ちたいと考えております。そんな時にネットワークが確立していれば活動の助けとなると思います。</p> <p>「音ボラネットが発信→全国の音訳ボランティア」だけでなく、「全国の音訳ボランティア発信→全国の音訳ボランティア」が可能になるように、ネットワーク作りをしていただけたらいいと思います。</p> <p>音訳講師を招きたい時、何処にどんな講師さんがいらっしゃるかも全然わかりません。音訳講師になるにはどうしたらよいかなど、とにかく情報が乏しくて困る事が多いです。そのへんの情報も沢山欲しいところです。</p>	<p>音ボラネットのシンポジウムなどに参加したいのですが、遅くてなかなか叶いません。冊子を届けていただいているのがとてもありがたいです。これから先、動画配信などもあるとよいと思います。</p>
26	<p>団体</p> <p>活動している市では現在まで感染者2名、感染経路明白ですが3密を避けることに注力しています。</p> <p>会員の意向を聞き外出に抵抗のある人は気持ちよくお休みしてもらいました。</p> <p>広報発行を止めない事だけを目標にしました。</p> <p>集合して録音・編集・発送する方法で活動していますので、人数が足りない回は自宅録音できる会員がデータを届けました。</p> <p>事務作業は会議室を借りて広い場所でささっと進めました。</p> <p>普段は空気を読んで「仲良く」に気を使っていたのですが、今回は能率を重視しました。</p>	<p>社協の建物の中で活動していますが、部屋の借り上げ許可が市役所で前日までに許可を得る必要があり、臨機応変ができません。</p> <p>上記の事務作業をしていた会議室が社協の事務室に転用され今月末の広報録音・発送はどうしたものか思案中です。</p> <p>会員の中に気になる精神症状を呈する人が出てきています。余計なことはできないのですが、帰宅してその事を引きずっている自分がいます。</p>	<p>外出自粛の中、何をとももどかしい限りです。</p> <p>藤田会長はじめ音ボラネットの事務局の皆さまにご負担をおかけしますが、他の地域の情報が知りたいのが一番です。</p>	
27	<p>団体</p> <p>月1回発行(毎月1日)される市の広報紙の音訳活動に参加しております。通常は1回あたり10人程で3回に分けて収録(総勢30人位)を行っていますが、5月号、6月号は自宅で収録できる人(12人位)で対応し、できたものを編集、ダビング、発送を少人数で対応しております。</p> <p>上記以外の活動、及び、勉強会は中止にしております。但し、中止する場合はその都度、リスナーの方(100名位)へ電話連絡をし、繋がりを大切にしよう心掛けております。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>特にありません。</p>
28	<p>団体</p> <p>●3月に入ってすぐに、すべての集まりを中止し、原本や録音要領など、必要な資料はすべて代表(事務局は代表宅)から会員に郵送、音訳相談は電話かメールで行っています。</p> <p>会員間で共通認識をもてるよう、連絡の頻度は多くしています。(いつもより忙しいです！)</p> <p>●広報紙など受託事業は、「ゲラ受け取り」「データ録音」「CD装備」「納品」まで、それぞれが役割を分担し、すべて在宅での作業を中心に行っています。</p> <p>対面での作業は「マスク着用」「短時間」を守っています。</p> <p>もともと、委託費で機材(CDコピー機、プレクストーク、レーベル用プリンターなど)を、代表宅や会員宅に設置していますので、こんな時は特に便利です。</p>	<p>●現在、定例会の会場としていた地域の施設が使えません。</p> <p>●会員のテンションを持続するためにも、感染対策を講じながら、今後、月に1回程度(いつもは2〜3回)の集まりがもてればと思っています。</p>	<p>●日頃はまったく音ボラネットのお役に立てず申し訳ありません。アンケートを通じて、全国の様子を知ることができれば幸いです。</p>	<p>●視覚障がい者団体など、総会が中止になった組織から、総会資料の音訳依頼があり対応しました。こんな事態だからこそ必要な情報提供もあると思いました。</p> <p>●在宅経費、郵送料、感染対策費(マスク、アルコール)なども行政からの委託費で賄っています。どんな状況でも音訳の役割を継続すること、ボランティアの不安定性からの脱却、今後の「あるべき姿」を思うと、会の自立、音訳報酬の有償化は大きな意味があったと感じています。</p> <p>●入会ほやほやの新人さんに、手取り足取りの指導ができません。自前でテキストを編集し、自主トレメニューを郵送。これが好評で、ベテランからも「勉強しなさい」との声も出ました。</p> <p>●「自粛」は「学び」の絶好の機会ですね。</p> <p>●この時期、利用者(視覚障がい者)の厳しさは想像以上だと思います。ほんのわずかの貢献でも、お役に立てるチャンスがあるのは有り難いと思います。何でも経験、プラス志向で頑張っていけます。</p>
29	<p>団体</p> <p>子どものグループ例会は毎月第一火曜日に開催しておりますが、2月中旬ごろから感染者が増えたので、3月の例会は感染予防のため休会にしました。</p> <p>愛知県が4月10日に緊急事態宣言し、名古屋YWCAが閉館、4月5月も休会となりました。子どもは自宅録音しているので音訳の活動は休止することはありませんでした。連絡事項等はメールで行い、本の受け渡しは郵送で行いました。</p> <p>ただYWCA会館が今月末まで休館中なので音声録音グループ宛ての郵便物・メール等はもうどうなっているのかは不明です。</p>	<p>特にありません。</p>	<p>このアンケート調査は音ボラネットだからできることです。全国の音訳者団体がどのようにこの時期を過ごしたかをまとめて頂けることに感謝します。</p>	<p>①愛知県図書館等名古屋の図書館では対面朗読は6月中も見合わせるそうです。常連の利用者からは相次いで再開はいつになるのかと問い合わせがあったとのこと。「待たれていることがひしひしと感じられるだけに、心が痛みます。」と職員の話。</p> <p>②親しい利用者の方に向けた話です。「外出自粛中に通院でガイドヘルパーさんと歩いたときのことで。接触を避けるためにご自身の白杖を横にしてヘルパーさんは白杖の持ち手の方を持ち、自分は石突きの方を持って、二人の距離を保って歩いた」そうです。</p> <p>不要不急ではない必要な外出時、快く同行され知恵を絞って苦心して活動するヘルパーさんに敬服します。</p> <p>持病のある方なので、どうなさっているかと電話をかけて久しぶりのおしゃべりを楽しみました。読書三昧の日々だそうで、サビエで読んだ面白かった本などを教えてもらいました。</p>
30	<p>団体</p> <p>この度の新型コロナウイルスにより私たちの活動に不安が有りました。</p> <p>活動拠点が市立図書館です。図書館長と話した結果、毎月発行のありんこだよりは特別に録音できる部屋を用意して頂くことが出来て2020年5月号発行することが出来ました。</p> <p>6月号は、通常の録音室の利用が可能となりました。ただ3密を避けることや体調管理に気を付けております。</p> <p>行政担当者の理解も有りました。</p> <p>ボランティア同志の理解も深まり、色々工夫していこうとする機運となっています。</p>			

31	団体 個人	<p>公民館や図書館など公的施設が使用禁止になったことで、市広報などの音訳図書発行が困難になったことから、市とCDダビング等の最小限の作業だけでも使わせて欲しい、と要請、相談しましたがダメでした。</p> <p>で、社協と相談したところ、ボランティアセンターのスペースを使わせてもらえることとなり、最小限の人数と時間(1人または2人、2時間程度)で作業できることとなり、広報、議会だより、社協だよりの発行を続けることができている。</p> <p>いつも使用している部屋には立ち入れないので、社協職員が必要な機材全てを運んでくれました。</p> <p>録音は各自宅で、校正訂正作業ができないので、各自責任をもって丁寧にチェック、作業前日までにUSメモリーで指定場所に。編集者が自宅に持ち帰り、編集からマスターCDの作成までを行い、翌日ダビング、発送作業を行っています。</p> <p>という状況で、社協の理解と協力で何とか活動が継続できています。</p>			
32	団体	<p>外出自粛前に郵袋とCDを各自が拠点から持ち出し、自宅出来る範囲での活動をしています。今後は踏まえ、オンライン会議のテストをしました。</p>	<p>三密を守っての会合を開くための広い会場を貸してほしいです。</p>		
33	団体	<p>中央区で活動している、朗読ボランティアグループわかはや会です。図書館に登録して、普段は対面朗読や、年一冊程度の録音図書を作成しています。</p> <p>現在は、3月から休止しています。ボランティア会議も中止になっています。</p> <p>社会福祉協議会の季刊誌(年5回)の音声版作成も、4月分は、録音作業をする場所が無いことや、複数で作業する事などで無しになりました。</p> <p>サービスでの朗読奉仕は、月1回3カ所に赴いていましたが、やはり3月からすべて無しです。</p> <p>6月に女性センターでの祭りも中止になり、朗読発表も来年に持ち越しです。</p> <p>年に8回予定している講師の先生をお呼びしての講習会も、4月、6月分は中止になりました。</p> <p>以上のような状態で、会員はすべて自宅待機なので、せめて、講習会で使用する先生から頂いた資料や、祭りで発表する予定だった台本を、各自に郵送して、自習しておこうということにしています。</p> <p>利用者の方には、出来る範囲で連絡を取り、ご要望があれば、これも出来る範囲で(自宅録音、自己校正等)お応えしようということになってはいますが、利用者の方も遠慮なさっているのかご要望は出てきません。</p>		<p>大きな組織に発展され、色々な情報を発信していただき感謝しております。</p> <p>例会で集まった時などに、送っていただいた資料を回し読みしたりして活用させていただいております。</p> <p>早く安心して活動できる日が来ることを念じております。</p>	
34	団体	<p>図書館が閉鎖になったと同時に録音室の使用が不可となったので、すべての活動が一時的に中断されました。しかし、自宅で録音している会員は全く影響なく録音を続けられました。編集も普段から自宅の作業でしたので、変わりなく続けました。多少仕事の量が減ったかなと言う程度でした。例年行われる、利用者との交流会は中止としました。</p> <p>天声人語、斜面などのニュース性のあるものは、一時中断しました。2ヶ月分を後でまとめて読み、希望者1人のみ送る予定にしております。</p> <p>5月21日より正常に活動を再開しました。</p>	<p>録音室の使用については、マイクの消毒や録音室は狭いため空気の入れ換えに職員が気を遣ってくれました。</p>	<p>期待した講習会など、残念なこともありましたが、仕方ないですね。</p>	<p>自分のためでは無いと叱られそうですが、この活動に参加していると言うことに、改めて自分の生きがいとなっていることがわかりました。</p>
35	個人 団体	<p>ロバの会では、会創立時点から音訳作業・編集作業ともに会員の家庭で行っています。</p> <p>従って、今回の「緊急事態宣言」下でも、CD製作には支障はありませんでした。「自宅にいる時間が増えたので、作業時間が増えた。」との意見もありました。</p> <p>定期的に発行していますCDも休刊することなく発行いたしました。</p> <p>発送作業は、作業に係る人数を3人を避けて3~4人に対応しました。(毎週水曜日のみ) また、発送に使用します「封筒」作りを事務所で行っていますが、2月末から5月末まで事務所を閉めたので、これも各自自宅で作業しました。</p> <p>このような事態になって、先輩方が考えられた活動の方法に「先見の明」を感じました。</p>			<p>藤田晶子様出演のラジオを聞き逃しました。</p> <p>ホームページなどで文字に変換していただかせませんか。</p>
36	団体	<p>ひびきの会は市立の4図書館の福祉として活動していますので録音は図書館内の録音室、または会員宅で行っています。</p> <p>静岡市では4月後半より5月17日まで図書館が閉館となり、図書館を使用することが出来ず自宅での録音のみでした。</p> <p>また、5月18日より制限付きで図書館が開館しましたが、録音室に複数での入室は避けるように言われていますので、刊行物など、複数で作業をする録音はいつもの4館とも休止中です。</p> <p>このような状況下ですので、5月から予定していた研修会等も9月後半まで延期、または来年度に繰り越す予定になっています。</p>			
37	団体	<p>公共施設の使用禁止の中、音訳室は使用可のため音訳版を作成している。</p> <p>当然のことながら音訳に反対する意見があり、次のコロナ対策をして作成することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アルコール消毒液、消毒シートを活用してください。 ○録音室の使用時間はできるだけ短くしてください。その為にはしっかり家で練習をしてみてください。 ○部屋の使用はなるべく重ならないようにしてください。 ○録音が終われば部屋の喚起をってください。ドアを開け、対面朗読室の窓を開けてください。 ○ドア、窓を開けて録音しても構いません。その為、多少の雑音はOKです。 ○モニターは1回にします。アクセントや小さな雑音はチェックしなくてOKです。モニター時点でOUTしてもらっても構いません。 ○家で録音を希望の方は、2セット貸し出します。貸し出しノートに書いてお持ちください。 	<p>社会福祉協議会の呼びかけで、市政情報課長(広報発行)、障害者福祉課長(総合調整担当)、社協総務課長と係長、音訳者5人が話し合いを持った。</p> <p>音訳者の視覚障害者に何としても音訳をお届けしたいなどの思いや数々の努力を聞いた結果、市政情報課では配慮不足を謝罪し、次号の音訳版作成を文書で依頼すること、また、毎年交わす確認書の中に不測の事態が生じた場合の対応についてを加えることなどを約束してくれた。</p> <p>障害者福祉課では、総合調整を約束し緊急事態に備えて音訳の外注についても配慮したいとの発言があった。</p> <p>社協は、最もボランティアの気持ちを理解してくれるところとして大変強く感じられた。なお加入しているボランティア保険がコロナ対応になったことは心強いことである</p>	<p>首都圏にある音訳ボランティア団体にとって今回の事態は、音訳反対の意見が当然の状況の中、苦しい対応を迫られました。</p> <p>苦しんだ結果、市や社協の協力を改めて引き出すことができたのは進歩でした。</p> <p>お陰様でスムーズに広報6月号に取り組みことができました。</p> <p>全国音ボラでこのような調査をされることに敬意を表します。</p>	

38	団体	アンケートについてのメールをいただきましたが、「こえ」の会員であり、貴会の個人会員でもある方からの報告に替えさせていただきます。 よろしく願いいたします。 一日も早くコロナ感染が収束し、また貴会の活動が再開されますことを願っております。			
39	団体	はとがや響は新型コロナ感染拡大防止の為、緊急事態宣言下にあり一切の活動が出来ません！！ 解除されたとしても、それなりの対策を講じる必要があると思います。 視覚しようがいの皆様にはかなりのご負担と不便な日々を過ごされているかと思いますが、情勢を注視し一日も早く活動を再開できるように願っております。 コロナで亡くなられた方のご冥福を心から祈りを捧げ、闘病の方々のご回復を願っております。 今後、何が出来るか？対応策を利用者の皆さんと検討が必要があると思います。			
40	個人	私たちが市の総合福祉センターで活動していますので、基本、センターの利用はできません。しかしながら、福祉課が「声の広報」は視覚障がい者の方々にとっては必要なもので特別に使用できるようにと福祉センターに申し入れてくれました。とはいえ、福祉センターとしても無条件にどうぞというわけにもいかず、利用にあたっての条件(三密にならないようにするための)を示されました。 また、私達としてもできるだけ感染のリスクは避けたいので、今まで通りのやり方は止めて、他の方法を探りました。それが、自宅録音です。何をいまさらと思われる方もいらっしゃるかも知れません。私達はいつもグループで集まって広報を製作していました。デイジー図書を自宅録音で製作したことがある人はいますが少人数です。一人で自宅で録音できる人は会員の半数もいればいいくらいです。まず、録音までのプロセスも、皆が集まることなくできるように考えました。原稿は福祉課の愛朗会担当の方をお願いして担当者の自宅に郵送してもらい、打ち合わせはせず、担当者がセクション、レベル、ルビ、割り当てを決め、原稿をそれぞれ音訳者に手渡し、または郵送する。自宅録音についてはPC録音、DRIでの録音(機器は貸出)で、読み終えたデータをUSBまたはCFカードに入れ編集者のところに郵送または手渡しで集める。編集者は集まったデータを結合・一本化し、編集する。次に校正者がチェックし、CD書き込みまで行う。と、ここまでは全て自宅で、他のメンバーに会うことなくできます。もちろん疑問点等は電話で相談したりしました。最後にCDのコピー、郵袋に入れての発送作業だけは数人(最低3人)必要で福祉センターで行いました。これも、全て自宅でできるような方法も考えましたが、あまり現実的ではないのでやめました。 以上のやり方で広報を発行したのは現時点では4月15日号から始めて4回目に取り掛かっているところですが、回を重ねるごとに原稿や音声データの受け渡し方法がインターネットを通じてのものが加わったり(勉強しました)進化しています。3回目には原稿も音声もほとんどインターネットで受け渡しできるようになりました。これはこれで凄いことだと思っています。このような非常事態が起きなければ、ネットを利用した送受信方法を会得するなどまだまだ先の事と思っていたのに必要に迫られればやってしまうものなのだと、嬉しく思っています。ピンチはチャンスですね。 今後、非常事態宣言が解除されたとしても今まで通りの皆で集まってお互いに聴き合い、時に厳しく、時に和気あいあいとするようなやり方ができるかどうかはまだ疑問です。今やっているような自宅録音では、ついてこれなくなる会員も出てくるでしょう。そうなった時に、会としてどうしていくべきかを考えていかなければならないと思います。 ともあれ、利用者さんの「こんな時に出してくれてありがとう」の言葉が本当にうれしく、励みにもなります。	私たちは市の障害福祉課の委託を受けての広報製作です。今回のような事態をどの様に考え対処するかを福祉課と話し合いました。 そこである程度お互いのスタンスが理解できたと感じています。お願いした事もすぐに対処して、それなりの配慮はしていただけだと思っていますので、今のところ特に要望はありません。	今回のような非常時の対応についてのアンケートはとても良い試みだと思います。が、この結果が出るのは6月以降になるとは思います。が、もう少し早かったら、他の団体の対策等もいち早く知って、自分たちの活動に生かされたかもしれないと思いました。 そこが少し残念かな。	
41	団体	私達の会では、自宅録音出来るかは僅かですが市の施設を利用しての録音となっています。 なので、施設が閉鎖になっている間は録音がストップしています。障害者と共に活動している会のために会内の情報、新聞、雑誌等の記事を毎月お届けしていましたが、それが出来ない為に皆さん寂しい思いをされています。 電話で声かけをしましたが、音訳者会員皆さんの声が届かないのが現状です。 5月末に一ヶ月遅れて議会広報を1日に1人づつとの限定で録音、校正をして発行となりました。 今回の状況をきっかけに、ネット経由で録音データをやりとりする方法も試行して成功しました。	行政はこちらに丸投げ！ 延期、実行どちらでも、ということです。 その為に録音室をどうするのかなどと言う事は全く考えていません。出来る様になったら、と良く言えば私達の感染を心配して下さっている事ですが、 今回の録音にあたっては、ボランティアが部屋の確保にあちこちに気を使って交渉しやっと実現しました。		
42	団体	①毎月一度ずつ行っている定例会と勉強会を休止しました。必要な情報のやり取りは、従来からのメールに加え、ドロップボックスに連絡事項専用のファイルを用意し各自が書き込むことにより情報を共有します。 ②発送日をまとめることにより発送当番の回数を減らし、福祉会館に向かう回数を最低限で済むようにしました。 ③市からの依頼原稿を手渡しから郵送に切り替え、市役所へ出向かなくてよくなりました。	大きな困りごとはありません。ただ、発送するCDやケースなどを消毒する消毒液などを配布されていたら安心だろうと思います。	特にありません。	特にありません。
43	個人	① 家の中に閉じこもってPCに向かい合っている時間が長くなり、テキスト訳はむしろ進んだと思います。ただ、三密を避けての体力維持にはちょっと困って、なん十年ぶりの縄跳びを家の中でやってみるなどの工夫しました。 ② テキスト訳では当たり前のですが、今回全国的にSOHO作業が推進されたのを聞くと、テキスト化作業の推進の機運も盛り上がりつつあります。そのためには、廉価かつ高機能のテキスト デイジーソフト開発支援と、我々ボランティアへのシステム運用コストへの支援も考えて欲しいと思います。 ③ 活動をより活性化するためには、テキスト化PJチームの運営機能をもっと強化して、音訳における標準化作業のようなことをもっと推進してはどうでしょうか。 ④ 海生君の博士課程への進学、各種資格取得取得への挑戦者の出現など、社会的な面でより高度な実務のサポートが増えています。それが現在の技術レベルでも十分対応ができることは我々が証明しつつあると言えらると思います。これは、「社会組織としてのユニバーサル化」と言えそうです。官庁での障害者の雇用比率を上げるためにも、もっと力を入れたいらどうでしょうか。			

44	個人	<p>公共刊行物の編集会議は、いつも担当者が集まり順番やレベル(1~3)を決めていたが、4月から3密を避けるため短時間で会議を終えるようレベル1のみで編集した。その結果、目的の時短で会議、製作、校正ができた。これなら次回もこの方法で可能と思ったが、5月は市の方針で音訳ができなかった。</p> <p>まだ私たちはPCのみで担当者同士がテレワーク出来ないで仕方なかった。</p>	<p>公共刊行物の音訳は、自主グループの活動にまかせっきりで将来に繋がるか不安です。行政からは使用CDと僅かな助成金をいただいておりますが、製作にかかわってられません。メンバーの高齢化が進み、かつては新人研修もできましたが今は自分の担当の音訳で精一杯の状況です。行政主導で新人教育や公共刊行物の音訳者の手配などしていただきたいと思っています。</p>	満足しています。	音ボラネット立ち上げ当初から様子を伺っていましたが、今の状況に感謝しています。皆様本当にお世話になりありがとうございます。
45	団体	<p>音訳活動は、基本、各人の家庭で録音を実施し、校正はファイルポストやピンクケース(郵送)だったので、コロナだからという影響はなく、来ています。その点は良かったなと実感しています。視覚障害者センターの録音室で録っている会員は、個人対応として、センターと連絡を取り、マスク、検温・消毒を徹底し、録っています。編集はセンターに集まって皆でしていたので、それは月の担当者がまとめて提出しています。</p> <p>ただ、会員の中にはパソコンを扱えない高齢者もいるので、緊急事態宣言の間は、本人の意思も確認し、当番の変更をしました。不急不用の外出をしない対応です。サークルとしての定例会や学習会、研修会は3月から中止で、6月もなしとしました。総会は、資料を会員に郵送し、書面決議としました。今年度は新たな先生をお招きして研修会を充実させる計画をしていましたが、先生とも相談し、一旦白紙としてコロナの様子を見ることにしました。音訳は「声」を出しての作業なので、発声を含めた読みの指導がメインの研修会は難しいとの判断です。非常に残念です。会員には小まめにSNSを利用して、コンタクトを取り合っています。役員同士はオンライン会議もしています。集うことが出来ず、人恋しくなるところですが、センターは日常は開いているので、状況把握や相談は出来て、大きく困ったことはないところです。</p>			
46	個人	<p>ありがたいことにプレクストークDR-1を4台保有しています。主なメンバーが家庭に持ち帰り音訳を続けることができました。編集も家で…。合わせるのは図書館で、裏口から入れていただくことを許可していただいたので、一人ずつ共通USBに入れ、最後の1回だけ3人でCDを作成・送付しました。かなり広い部屋なので、ソーシャルディスタンスには配慮できました。今回は突然、行政から出される情報も随時便として作成しました。ほとんど一人作業ですが、視覚障害者の方には大事な情報ですので、しっかりととどけました。</p>	<p>隣市では図書館に入れてもらえない所があったようでした。広報という行政とのつながりがある音訳を主としていますので、協力や配慮はしていただけたかと思われ。臨時の情報や急ぎの情報は市議会議員さんたちからも直接、連絡がきました。なるべく、テキスト化しメールで流しました。メールのできない方にはCDの作成を急ぎました。</p>	<p>ステイホームのきびしい状況の中、皆さまのご活躍に頭がさがります。とても、たくさんのテキスト化があったように思われました。あまり協力はできませんでしたが、少しずつ教えてください。コロナも災害の一つです。こんなとき、全国で助け合えるネットを運営していただけて心強いと思います。</p>	<p>今回、他市の方から小学生の宿題の一部をすぐに音訳して(普通の音訳)…と頼まれました。小学校2年生の国語と算数です。漢字の書き順はどうしたらいいのか悩んでいると「スルーしていいよ」とのことです。私には楽そうだが難しいことがまだまだありそうです。テキスト化の方から2×6=12の音を送っていただき、「へえっ~ こうなるんだ」と驚きました。私にはドンデンシャ!の情報でした。うれしかったです。少しして、中1の英語を案内していただきました。テキスト化とはいえ、小2の漢字でつまづいた私は残念ながら手をあげることができませんでした。役にたてなくて、本当にすみません。今回のステイホームの中、行政からの急ぎの情報はテキスト化してメールで流したことも数回ありました。テキスト化に慣れていけば、本当に役にたつと心から信頼できました。すばらしい技量を持った音ボラネットのみなさんに出会えたことはうれしいかぎりです。これからもいろいろなことを教えていただきたく願います。</p>
47	個人	<p>所属しています会は月2回の例会はとりあえず8月いっぱい休会です。私は、元々在宅ワークで音訳・校正等を行っていますので、仕事はほぼかわりなく行っております。</p>			
48	団体?	<p>市から委託されている、声の市報(月2回・1回に6人参加)、声の議会だより(5月に1回・4人参加)は休まず継続して行われました。その際、市職員の方からマスクと消毒用のウェットティッシュが配布され、3密をなるべく回避し換気を良くして編集作業を進めました。会費で月1回発行している声の雑誌は、3~5月は休刊にし、6月は通常のものより短いものを作成予定です。</p> <p>図書館での活動が出来なくなったため、月1回全員が集まったの例会はお休みし、連絡事項をまとめたレジュメを毎月メールまたは郵便で会員に送りました。年度をまたいでの出来事だったので連絡事項が多い時期で、係によっては引き継ぎなどもあり、苦勞が多かったです。感染拡大の第2波の事も考慮し、今までUSBでデータを受け渡していましたが、今後はメールにてデータのやりとりをしていけるよう、会員に向けたマニュアルを作成する予定です。</p>	<p>会員の中で、新型コロナウイルス感染拡大防止に対する意識の違いがあり、市から委託を受けている声の市報等の作成について、参加を家族からとめられたり、参加を躊躇される方もいらっしゃいました。</p>	<p>シンポジウムの中止等もありましたので、また様々な学びの場・交流の場を提供していただけることを期待しております。</p>	<p>今後も完全に安心して活動できる状況にはなっておりませんので、皆様どうぞお体におきをつけて下さい。今後ともよろしくお願い致します。</p>
49	団体	<p>新型コロナウイルスが全国に先駆けて拡がり、特措法に基づく緊急事態宣言解除が発表された現在も(5/26)最も懸念材料が多く残ってしまっている北海道です・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録音については、当会は会員各自が自宅にPCを用意して作業をしておりますので、今回の感染については、影響を受けずおります。 ・「新聞代読サービス」(声の新聞)について (株)NTT東日本北海道より場所の提供を受け、月~金で、3~4人体制でその日の新聞を電話でお読みしている「声の新聞」は、3密を避けるため休止せざるを得ませんでしたが、利用者の方との弊、断ちがたく、窮余の一策として、会員が自宅から、自宅の新聞をお読みするという形(イエデン・リーディングと呼んでおります)に変更し、現在に至っております。当会が連絡先を把握している、ヘビーユーザーの方達のみへのサービスということになり、十分とは言えませんが、利用者の方たちからは大変心強いと喜んでいただいております。宣言解除にはなりませんが、会員の身の安全を図るため、慎重を期して、6月末までこの形を継続すること決定したところです。 ・対面朗読について 基礎疾患をお持ちの方たちのため、残念ながら、活動は休止しております。 ・リモート会議 「わいわい文庫」制作のご依頼を頂いておりますが、音訳者・校正者・編集者・編集校正者の4人がリモート会議を開きつつ、鋭意制作中であります。このような形が今回のコロナ禍を契機に音訳の世界にも広がるのではないのでしょうか。 		<p>今回のようなアンケート収集で全国の状況を知ることができるとありがたいことに思います。</p>	

50	個人	活動に使用している施設、広報誌等録音の録音室は使用できなくなりましたので、活動休止中です。3月下旬よりファイルポストを利用して何とか利用者の皆様に広報誌等、一度も停止することなくお届けしています。(ファイルポストできる会員が3名しかいませんが)6月になれば施設も使用できる予定ですので勉強会等の活動も開始できると思いますが、今までの部屋では3蜜になってしまいうので何か工夫が必要です。今までは皆で集まり何も気にすることなく楽しく活動できていたのが夢のようになってしまいました。活動できるよう、これから皆で色々考え、頑張りたいと思います。	市の広報誌でありながらどこか他人事という感じで、ボランティアの人達が好きで、生甲斐で、勝手にやっている、という考え方を広報課はしているのではないが、という思いが常にあります。ずっと以前からの我々の課題で、なかなか広報課の理解を得られないでおりましたが、今回のことを機に話し合いの場を持っていたらいい事になりました。	音ボラネットに入会し、会合に出席して他の方たちの活動を知り、広い視野で考えられるようになりました。これからも宜しくお願い致します。
51	個人	活動拠点もしまっているため、活動休止です。		あとは申し訳ありませんが、たまにしか参加をしていないので、とくに意見はないのです。
52	個人	アンケートについてですが、現在もNPO法人デージー横浜に在籍はしているもののボラ活にはほぼ関わっておらずお応えできる状況にありません。申し訳ありません。		
53	個人	スタジオ録音なので(自宅録音はしない)、活動場所である市の福祉センターが休館となっていた間は活動ができなかった。途中 短期間 閉館した時期があったが そのときはスタジオ使用時間を短縮。交替時に時間を取り換気と機器やスイッチ ドアノブの拭き取り消毒。これまで2人以上で1つのスタジオに入って記事を交互に読んでいたような収録の仕方は禁止し、ひとりずつ読んであとで編集で組み替える。スタジオ外ではマスク着用、会議等の中止、打合せ等は距離を置く、など。	行政機関へは特になし。	福祉センターで録音活動をしているので、ここが閉鎖であれば何もできない状態でした。点字図書館(職員)は仕事をしていたので、自宅録音でデータの受け渡しがうまくできた利用者情報発信もできたのかも。ただそのやり方がわからないので、たとえば、広報の自宅録音でボランティア間での校正とか、できあがったものを市町村におさめる、または個人の利用者へ送るやり方などを広く知りたいです。もちろん、それぞれの条件は違っているとは思いますが。たくさん事例を参考にさせていただきたいです。そういう情報の収集は音ボラにしかできないのでは? この機会に!
54	団体	家に閉じこもれるから、音訳・校正・編集・チェック等進むだろうという様な単純なものではありませんでした。心が平常でなければ、そして普段以上に家族の協力がなければ、活動もスムーズにはいきませんでした。事務所の方は、手洗い・マスク・換気に十分注意を払ってできるだけ、事務所を開けるようにしましたが、会員のほとんどが高齢者のため、結果的に、時間短縮と、又、少人数での活動という事になりましたが、お陰様で長崎は緊急事態解除も早く、現在は、ほぼ、以前の状態で活動しています。高齢化で心細い限りですが、頑張っていることとおもっています。		現在の悩みは、どんな本でも依頼であったらお引き受けするというのが、基本的姿勢なのですが、だんだん頑張れる年齢の会員が少なくなり、利用者の依頼をすべて引き受けすることができなくなったことです。引き受けられない時は、音訳ボランティアネットワーク様を紹介させていただこうかと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。
55	個人	毎月2回の勉強会は全面休会です。広報などの吹込みは担当者を決めて自宅で行い、発送は施設に行って短時間で仕事をこなす様になっています。工夫としては、お休みの間、本を吹き込みましょう。と話し合いました。	私たち会員が直接視覚障がい者の利用者の方に連絡を取ることができないので、困ることがありました。行政も、施設が使用できないのに、連絡もなく、広報の発行を、私たちに任せきりのような感じで、広報を発行できるかどうか判断に困ることがありました。	何事をするのにも人手が必要ですから今はいろいろ難しいことが多いと思います。例えば、通信なども紙発行ではなくてもよいのかと思います。
56	団体	当グループは市の中央図書館を活動拠点として、ほぼ全ての集まりに利用しています。3月2日から市立図書館は全館臨時休館となり、5月27日時点で6月1日再開が決定しています。しかし、ボランティア活動再開は7月以降となり、月例会・勉強会等含め集まって行う作業は、3月始めから全て中止、対面朗読については2月最終週からの休止が6月いっぱい続くことになりました。録音資料製作については、録音図書の外に定期刊行物を2種類製作しています。・録音図書は休館前に自宅で録音を始めたものについては音訳者と校正者の間で原本・音声ファイルを郵送するなどして最終的にCD書き込みまでしたものを図書館に送り返して完成させました。3月、4月は製作依頼が中断していましたが、5月以降、図書館からの依頼で少しずつ、原本・仕様書を郵送で受け取るなどして新たな図書製作が始まっています。・定期刊行物は週刊と月刊 各1です。休館前はそれぞれ製作担当者が自宅録音したものを図書館に持ち寄り、校正、編集、CD書き込みなどの作業をしていました。週刊のものは3月発行分は休刊となりましたが、4月より内容を簡略化しオンラインストレージを利用して校正を行うなど、すべて在宅で製作することになりました。毎月5日発行の月刊のものも同様に内容を簡略化して編集作業の軽減を図り、オンラインストレージを使い、こちらは休刊することなく発行を続けています。どちらも、6月も在宅製作継続の予定です。これまで、オンラインストレージは一部では利用していました。今回、定期刊行物の在宅製作を打診されたことで急遽使える人員増を図りましたが、会員の多くは未経験で、使用方法の周知もメールや電話で指導するほかに難しい面もあり全員の習得には至っていません。しかし、感染防止を意識した日常を送るなかで、オンライン作業を取り入れた活動形態に変えていく必要も感じています。・新人募集、育成のため1年間の養成講座を毎年開講してきましたが、昨年度開講の講座は終盤になって中断した状況であり、活動再開後に現受講生へのフォローが課題となっています。また、今年度の養成講座は開講できず、新人の募集・育成が中断した状態です。		

57	団体	私達の会でも日頃活動拠点として使わせていただいていた公共施設がすべて閉鎖となり、約3カ月程休会となっております。 ただ、私達の本来の活動は視覚障害のある方々に取手市の広報等情報誌をお届けすることなので、最小人数でファイルポストを使用してデータを交換して編集発送を遅滞なく届けられるよう努めております。この時節ならばこそ、いろいろと情報不足に困っている方々もいらっしゃるかとも思います。今後、少しずつ活動が出来るようになるとは思いますが、以前と同じ状態で勉強会、録音活動等ができるようになるには時間がかかると思っております。 人数配分、時間の使い方などいろいろ工夫、思案しつつみんなで相談しながら進んでいきたいと思っております。僥越ですが、利用者さんあっての私達の活動なのだと改めて考えさせていただきました。			
58	団体	3月は次の様な工夫をし、市の広報紙のみを編集し読者へ発送した。 ○少人数、短時間での編集活動 ・午前活動・午後活動と4～5名ずつで実施 ・原稿の内容を精査し編集 ・活動可能な者のみ参加 ・録音ブース席以外の団員は、マスク着用 ・いす、テーブル、機器等の消毒と、部屋には消毒用加湿器を使用。出入口は開けて換気。 4月5月は、活動休止。 6月1日より活動再開の予定です。			
59	団体	活動拠点である図書館が休みのため集まっていた活動は休止中。 図書などの録音、校正、編集などは従前通り各自自宅で行っています。 広報の録音、納入は実施しています	勉強会、例会が開催できないこと、完成した音訳図書などが納入出来ないこと。		
60	団体	活動拠点(社会福祉協議会)が3月から利用停止のため定期刊行物等(3種)の製作・発送を中止しており、会の活動も休止状態です。 録音雑誌は、拠点の利用が再開したらすぐに発送ができるように記事を読んでモニターして編集まで各自宅で準備していました。 (データのやり取りはパソコンで)結局3月は1つだけギリギリ発送できましたが、後の発送はできませんでした。 例年4月開催の総会については書面議決により行いました。 会員との打ち合わせや資料送付は、メールやラインのグループ通話機能を活用しています。 なお、活動拠点再開後の新しい活動方法についてメールを利用し全会員で検討中です。		今回のような非常事態下での活動の工夫や読者への状況説明の方法などについての情報を早く共有させていただきたいです。	
61	団体	普段利用している会場が閉鎖され使用できないので、定例会、事務局会は、オンラインミーティングで行っています。 5月25日の総会も、オンラインで開催しました(参加者32名)。九州や関西方面へ転居後、引き続き会に所属して協力してくれているメンバーも参加がかない、久しぶりにPC画面上で再会という思わぬ利点もありました。 新しいミーティングのツールとして色々な形で使えるのではと思っています。	対面での会合が開催できないために、新入会員との話し合いができず、今後の予定も立たないのが、辛いことです。 メールでの意見交換やオンラインでの話し合いはできますが、やはり細かい内容が伝わりにくいように思います。	このような状況下で、視覚障害の皆さんはどのように過ごしていらっしゃるのか、情報をいただけたらと思います。	
62	個人	情報センターも全館閉鎖していてセンター主催で計画していました研修会等・・・全て中止、延期に。点訳との連合会(音訳部会主催も)全て中止、延期に。いつになるか見通しも分からずセンターからの指示待ちです。 私達の会も月2回の勉強会も出来ず、プライベートで会が受けた資料(冊子)を利用者さんの了解を得て数人で分け読みし、郵送、pc送信等で指導を含め校正をしています。 しかし、対面でないどうしても伝わらない事の方が多く、悩んでいます。 私自身は公報関係など音訳しているため、市立のスタジオを貸していただき音訳しています。 アンケートの返事というよりも、近況報告になってしまいました。悪しからず。			
63	団体	・対面はできませんが、音訳、テキスト化は止まることなく活動しています。 ・お孫さんの世話、デイサービスができず介護と時間をとられる方、逆に他の活動が中止になり、いつも以上に活動できる方がいて、作業は滞っていません。 ・対面ができず、小物ですがテキスト化が増えました！	・ガイドヘルパーをご利用の方は、接触になるということで断られることが多くなり、「必要な外出もできなくなっている」と聞ききました。ニュースにもならない弱者の方々を目を向けてほしいと思います。	・今回の状況で、今までPC、スマホの利用が苦手だった視覚障害の方もネット社会についていこうとする動きが見えるそうです。 テキスト化の要望はますます増えるのではないかと思いますので、普及のサポートを充実できると思いますね。	
64	個人	情報センターから依頼の図書録音や校正などはいつも通りにやっています。全て郵送です。情報センターは5月中は出入り不可です。地域の広報は、いつも活動している施設が利用不可となり、他の施設に登録して活動しましたがそれも不可となり区の会議室を借りてやっています。各自が録音したものを編集してCDに書き込み利用者に配布する作業です。 作業は数人で行いますが、2メートル離れマスクし換気して必要以外お喋りは無しでやっています。録音前の原稿を確認するための「読み合わせ」で集まるのは密になるのでやめにし、原稿を分けてそれぞれからしない所は電話やメールでやり取りしています。音源のUSBメモリも菌付着の心配があるので、消毒ティッシュ等で拭いてやっています。	定例会がずっと中止なので連絡はメール配信していますが、先が見えないので皆さん不安を抱えて活動しています。会員の中には、広報を配布するボランティアはしばらくお休みするべきではないかと不安に思ってお休みする人が1人出ました。他は皆、区に委託されている(委託料有り)公的ボランティアなので、利用者のために3密に気を付けてできるだけ続けるべきという意見で頑張っています。ですが住んでいる区に短期間で何人も感染者が出たときには、ほんとにどうしたものかと迷いました。 他の地区の会では、録音スタジオの閉鎖と委員の不安で、社協に「活動をしばらくお休みしたい」と訴え広報の配布を停止したと聞きました。どうするか判断の基準はどうなんでしょうか？とりとめのないことを書いてしまいましたが、委託している区の広報係が、「できるだけ気を付けて活動を続けて下さい」とか感染が蔓延しているで「しばらく活動を停止して下さい」とか言ってくれると有り難いですね。	特にこれといってないですが、音訳にかかわることで、コロナウイルスに感染しないように「こういうことは注意しましょう」という事がありましたらホームページに載せ頂くと有り難いです。例えばUSBメモリの取り扱いや利用者への郵袋やCD等の取り扱い、その逆もあります。またパソコンを共有して録音している場合などです。 やはり全て消毒が必要になるんでしょうか？	

65	団体	<p>現在、活動はお休みしています。 3月からの図書館休館中も録音室/ボランティア室の使用は許可されていたため、新聞/週刊誌(双方抜粋版)の発送は継続、高齢者施設での朗読活動と換気の問題で対面朗読は休止。4月10日以降、施設の入館も原則禁止となったため活動休止(現時点) 現在は、担当している蔵書製作、プライベートサービス関連の録音製作など、自宅で出来るものだけ個々に進め、活動再開後、発送、提出等出来るようにしています。</p>	<p>図書館の障害者サービスへの協力という活動で、図書館の設備を使っています。そのため、入館できなければ活動はままなりません。また、図書館を通しての依頼に応じている状況なので、このような非常時でも枠を超えての活動は出来ていません。行政も縦割りではなく横繋がりで考えてもらえれば、と思います。 図書館の担当職員の異動が2年続いています。異動は、完全な引継ぎ業務がされない場合や活動内容によっては初めから説明をして理解していただくこともあり、これからというとき、また人が替わる…、人事上致し方ないと思いつつも、活動に支障が出る場合も否めません。職員の専門性を育てる人材養成と長期に担当していただける人事配置をお願いしたい。</p>	<p>今回の中止になったシンポジウムの内容に期待していました。 近年、会の運営が難しくなっていると感じます。時代の変化に、なかなか対応し切れていない現実があります。また、企画していただきたいです。</p>	
66	団体 個人	<p>「新型コロナウイルス感染拡大防止のために、活動拠点(録音室がある)の市民活動センターは3月3日から閉鎖になる、録音室も使用禁止になる。」と急遽伝えられた。前日3月2日のことである。たまたまそこで活動していた音は慌てた。今後録音活動はできなくなる！かたれば、ほとんどの録音物を録音室で録音していたのだ。思い返すとその日は役員会をやっており、その場に役員もいたことが幸運だった。今後の対応をすぐに皆で話し合った。他はともかく、公報のみは録音し利用者さんに届けたい、そしてこの状況を早く利用者さんにお知らせしようという決意、録音室で録音していた会員に原稿を作ってもらい活動センター閉鎖のため、今後は広報のみのお届けとなる」とCDとテープに録音し、その日のうちに利用者さん全員に郵送した。 また、気を付けて少ない人数等考えて使用するから録音室を使用させてくれと活動センターにお願いしたが、他のサークルは全て活動を停止するし、入館禁止になるからとよい返事はなかった。すぐに広報課に電話をいれ、状況を説明し、このままだと広報は録音できなくなると伝えた。広報課はすぐに動いてくれ、活動センターと話し合ってくれた。活動センターは「市からの依頼なら仕方がない」と条件付きでの録音室使用を認めてくれた。(条件は、録音室にはどんなに多くても3人までの入室。他の部屋の入室は極力控えることなど)これはとてもありがたかった。その後も広報課は、活動センターでのコピー機の使用を控えたいからと、ゲラ刷り原稿13部の印刷をお願いしたが快く引き受けてくれ、活動センターへ届けてくれた。 こうして3月中旬に入稿した広報4月号を、続いて5月号、6月号も、感染拡大の条件を作らないよう注意して製作し、CDとテープを利用者さんへ郵送できた。 また4月末に入稿した「市議会だより」も、一層の神経を配りながら製作し、郵送した。 委託契約の「広報富士見」と「市議会だより」には、新型コロナウイルスの感染拡大防止の注意情報や相談先の電話番号、市の対策や取り組みなど、今伝えたい情報が掲載されており、届けられてよかったと実感した。 ＜実践した録音活動＞(通常、録音室に4人ずつ入り録音、同時モニター、さらにPCに落としてモニター、訂正、仕上げているのだが)録音・校正・ダビング・発送まで、通常の作業工程でやらなくとも切り替える必要があった。三密を作らず、人と人との接触をせず、手洗い、消毒、うがいで感染の予防を徹底することを申し合わせて取りかかった。 ① 編集会議は止め、原稿やCFカードの受け渡し～編集者へデータを渡す方法は、先方のポスト渡しに郵送とする。PCでネット送信が出来る人はファイル便等を利用する。 ② 読み手は(原則)独り録音できる人、自宅録音が出来ない場合は録音室を利用してよいが1日1組、2人までとする。4月に入ってからは、録音室は密室であるため使用を禁止し、自宅でのPC録音、又はDR-1を貸し出して独り録音に徹底した。 ③ デザイン編集と、利用者へのCDのコピーは、自宅で作業してもらうなどの方法をとった。 ④ 接触しない方法で作業を終え製作完了、市へ納品、発行日にゆとりをもって利用者へ郵送した。</p>	<p>＜廣心したこと＞ ・感染拡大防止のためにその後の定例会が中止になり、全会員への理解が得られないまま作業を進めたこともあり、感染しても、感染させても…との心配から、活動を休止しないことへ強い反対意見もあつた。 ・活動拠点が閉鎖される非常事態であるのに、音訳ボランティア活動どころではない…、新型コロナウイルスが収束してから録音するのではいけないのか…。 ・全部音訳するのではなく、抜粋を考えてよいのではないか？ ・利用者へデータベースで配信できるようにならないか…。 などの意見は相互の安全を心配して寄せられ、真摯に受け止めて、より慎重に作業をした。 ・新規会員募集の入門講座を1月から3月に10回行う予定であったが、会場が使えず6回までの実施で終わってしまった。入会しなかった方には講座を最後まで受けられず、自信がないとの声も多かった。また入会希望の方も受け入れ態勢がとれず、入会を7月定例会まで待ってもらっている状況である。残りの講座も実施する見通しが全くない。</p> <p>＜今後に思うこと＞ ・日頃から独り録音する機会を増やし、慣れておく必要がある。 ・一人録音のために、音量や間の長さなど録音の決まり事を皆で再確認し、周知しておく</p> <p>今一番の懸念は、新型コロナウイルス感染拡大防止に対する各人の考え方の違いが、今後の会全体の活動にどのような影響を与えるか、以前のような活動に戻れるかということである。ともかく、会全体にいろいろな変化をもたらした新型コロナウイルスである。</p>		
67	団体	<p>私たちグループは 県立図書館(E508)と県南の登録者のために牛久中央図書館(E505)で定例会他の活動をしています。 今回は 2/22(土)に図書館から感染予防のため 定例会など人が集まる活動は当面休止の連絡があり現在まで続いています。 図書館には 対面朗読ボランティアグループも有り 私たちは 録音図書製作とイベント協力などの活動です。イベントは中止になりましたが 自宅で録音をしているメンバーは録音を進めています。 校正は 郵送や校正者宅のポストインで行っています。図書館担当職員さんへの連絡は メールや電話です。 6/1から 10人程度の集まりはOKになり 定例会再開の許可が出ましたので 牛久での県南登録者は感染予防に気を付けながら 通常の活動に戻れると思います。 県立図書館は元々今年2年度予定に5月から8月末まで 改装の為全館休業となっていました。このまま8月末まで録音室は使用できませんので それまでには下調べや練習をすることになっています。 10人を超えての集いも良くなれば 勉強会も必要と思いますので 牛久に水戸近辺のメンバーも参加の予定です。</p>			
68	団体	<p>当会は市からの委託事業である市広報紙(月2回発行)や議会だより(直近では5月発行)等の音訳を主に行っています。市障がい福祉課からの委託を市社会福祉協議会が受託し、社協登録団体の当会が実施。活動の場は社協が置かれている市総合福祉センターです。録音室での作業ですので、自宅録音は行いません。 市からの指示により福祉センター自体は使用休止施設になりましたが、当会に関しては使用の許可をいただき、音訳作業については通常どりの活動を行っています。 当然のことながら3密回避には注意し、録音時以外はマスク着用。検温や使用機材等の消毒ができるよう社会福祉協議会の方が準備して下さっています。 市広報紙は紙面構成の変更でページ数が減少した号もありましたが、臨時号や特別号の発行が続き、即対応しました。 わずかですが全く同じ内容の記事が掲載されたことがあり、その時はコピーをしました。</p>	<p>本来であれば新入会員の活動が本格化する時期なのですが、3密回避や活動時間短縮のため一緒に活動することができない状態です。資料を送るなどの対応はしていますが、やはりモチベーションの低下は否めないようです。 「生活の維持に必要な場合を除き、昼夜を問わず外出しない」という内容の市防災メールや防災無線放送が毎日流れてきました。音訳活動は不要不急ではありませんが、言われ続けると精神的に少々キツイ時期がありました。外出自粛しなくていいのか…と。 そんな時、委託先の市側からの労いの声掛けがあれば、こちらの気持ちも楽になったのかと思います。</p>	<p>今回メールをいただき、全国に同じような状況下で活動している仲間がいることを改めて思い起こしました。 また、このように振り返る機会をいただけたことで、音訳や日々の活動に対するメンバー同士の思いを確認することができました。ありがとうございました。</p>	<p>全国の皆さんはどのように活動されているのか是非知りたいと思います。参考にできることも多いかと思っておりますのでHP掲載に期待しています。 役員の皆様もお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。どうかご愛ください。</p>
69	団体	<p>福岡は、3月末から5月中旬まで活動拠点の「福岡市市民福祉プラザ」が閉鎖されました。正式には5月20日から使用可能となりました。みんな自宅で自粛状態でした。 録音室、点訳器材の使用、会議室の使用ができませんでした。 会報づくりなどは自宅で行ってました。 本日2か月ぶりに役員会を行いました。 2019年度の総会もできず、8月に実施予定です。</p>	<p>会議の会場の空きがなく、部屋の使用に関して定員の半数という制限があり困っているが 仕方ないようです。</p>	<p>コロナ感染が収まった段階で、皆さんの現状と解決策など知りたいです。</p>	<p>私たちの活動は、パソコンや録音機材などの活用が多いので自宅でも活動を続けていますが、ガイドボランティアの方々とは活動停止状態です。視覚障害者の方が一番大変だったと思います。</p>

70	団体	3月から勉強会や会議は開催を自粛していましたが、緊急事態宣言からは利用開施設が閉館になり、会議はネットを利用して行っています。 市の広報誌と社協からのお便りの収録は継続するので、これは自宅収録ができる人が参加しています。USBの交換やファイルポストでの校正の後に、同様に市役所や点字図書館に送付しています。 勉強会は7月から人数を半数にして行い、今年の講演会や交流会等の行事は中止する予定です。 予算の使い方に大きな変更があると思われませんが、見逃せない中での活動ですので、3月末時点での予算で行う予定です。 約70人の会員がいる本会ですが、現在皆さんと顔を合わせての活動がなくなってしまったことが、会の運営での悩みです。(5月31日)			
71	個人	当地の近辺で確認された感染状態は少なかったのですが所属グループは、早々に活動停止を決めました。 市や社協の広報誌については、名乗りを上げた有志数名が集合接触なしでデータ通信などを使いマスター制作。 CD作成や発送は社協職員さんに委ねました。 6月から施設利用が可能になるので活動再開の予定です。			
72	個人	今まで、当たり前のように行っていたメンバーが集まっての会議や図書館の録音室での録音が出来なくなりました。 自宅PC録音、web送受信が出来るメンバーが録音作業をしています。 PC録音するには機材が必要で、自宅での録音環境もあり、全員が出来るわけではありません。 図書館録音室は窓もなく換気が出来ませんし、今後再開はどうなるのか・・・。 利用者の方へお送りしているCD-RW・CDケース・郵袋は個人専用のものがあるわけではなく繰り返しで利用しています。 郵袋も、特に汚れが目立つものはふき取りをすることはありますが、そのまま使い続けています。 いろいろな場所で「消毒」が行われているのを考えると、気になるところです。 3密を避けて活動となると、今後ますます、Web上でのやり取りも必要になってくると思われます。 読む力、書く力も要求されることだと感じています。 今の状況、思いの羅列で申し訳ありません。		音ボラネットでいろいろな情報を得て、自分の頭を少しづつ整理していきたいです。	
73	個人	掲載NG			
74	個人	3月20日以前はまださほど仙台は緊迫感も無く、活動もほぼ通常通りでしたが仙台の町中でクラスターが発生したとの報道と共に自粛の波が日々高くなって参りました。 仙台音訳の会は4月3日メールや一部電話・ファクスによる連絡網で、4月7日の定例会、21日の総会中止等の連絡があり、細々したはずせない作業は役員が担うとのことでした。 仙台市から委託されている毎月毎の市政だよりや仙障だよりなどの音訳CD・テープは最少人数で出来る限りテレワークで製作し発送することになりましたが、仙台音訳の会で発行しているCD・テープは当面休止になりました。 総会は郵送による書面議決書で対応、対面・訪問朗読も中止となりましたが、私は4月3日に訪問朗読の予定が入っていたので、利用者さんのご希望に添いこの日のみ私ともう一人の担当者と共に訪問しました。 仙台は四月中比較的発症者が少ないほうではありましたが、それでも宮城県内で現在まで88名の方が罹患され私たちの活動の拠点である仙台福祉プラザも閉館となったり開所していても最小限人数の入館に限られました。 これまでも会として徐々に準備は開始していましたが、コロナ禍をきっかけに、DR-1で音訳していたメンバーの何人かはパソコン音訳にシフトし、データ送信なども遅延してテレワークが進行したのではない私たちのグループ「杉並朗読ボランティアの会」は杉並区中央図書館に属し、月刊誌の音声図書製作と一部会員による対面朗読を行っています。図書館の休館により、これまで図書館で行っていた対面朗読と月1回の定例会ができなくなり、図書館で受け取っていた雑誌が受け取れなくなりました。 図書館は休館に際して、私達の活動に協力的でした。図書館で受け取っていた雑誌は図書館から各会員に郵送してくれ、感染拡大防止のため、会員同士が連絡や受け渡しのために会うことをしないよう方針を示してくれたのも、明確でよかったと思います。 音声図書の製作はこれまで同様に行うことができている。定例会はZoomを使ってウェブ定例会として続けています。3月に試験的に少人数でウェブ会議を開いてみて、いくつかのウェブ会議ツールを検討しましたが、Zoomが一番使いやすそうでした。無料プランを利用しているので40分で接続が切れますが、再接続できるので会議に大きな支障はありません。Zoomの画面共有機能で、PGIに入っている文書等を見せたりできるので、便利です。 Zoomを使った会議にも慣れ、会合の機会は今までよりも増えました。これまでは月1回の定例会だけでしたが、緊急事態宣言発令で皆がかえって時間ができたせいか、担当記事の読み方を相談する相談会やグラフの読み方の勉強会もウェブ会議で開きました。外出自粛で知人に会うのはばかられる中、ウェブ会議でお互いの顔が見られるのは皆の楽しみでもあります。図書館が使えるようになった後も、相談会はウェブ会議として続けたいと考えています。		視覚障害をお持ちの方で、情報を得る機会を持たない方がまだまだ多くいらっしゃるようですが、音ボラのネットワークで更に幅広く日本中に点在する音訳・朗読ボランティアの組織や個人をコマーシャルして頂ければと思います。	
75	団体			ウェブ会議には様々な可能性があると思います。音ボラネットでの講演会や研修会をウェブ会議等オンラインで行うとか、利用者の方へオンラインで何かサービスを提供するとか、様々な可能性を検討していただければと思います。	

76	個人	<p>グループで製作している広報や月刊誌、蔵書はコロナ前と変わりなく、滞りなく出来ています。できていないのは、例会、視覚障害者との交流会等ですが、例会は6月から少しずつ開く予定です。地域の利用者に広報を滞りなく送る事が出来るのは、デジタルで自宅録音し、校正や編集等のほとんどをデータのメール送信のやり取りで行える事が大きいと思います。最終的に郵送袋に入れて送る作業はいつもより作業人数を少なくして密にならないよう気を付けました。作業の場所はいつもの場所(福祉センター)を使うことができました。</p>			
77	団体	<p>当会は自宅録音ですので、活動はこれまで通り何とか行っています。ただし、集まっただけの勉強会などはできないので、入会年の新しい方は先生のご自宅に音訳の課題を送って電話で個人指導を受けています。これを機に、ネットでのデータのやり取りなど出来ると良いのですが、今は目の前の音訳を回していくことで手一杯。 日常の活動ができるようになったら、そんな事にも取り組んで見ようと思っています。</p>			